

# 就学前教育における教材の研究

——絵本の構造分析——

秋場美智子

はじめに

幼稚園・保育所の保育者達が集まって、保育の問題について、いろいろ話し合っている時、園で来年どのようなことばのワーク・ブックを選んだらよいかということ、検討が進められているとの話題が提供された。実際にワーク・ブックを使用して言語指導をした保育者からは、ワーク・ブックを使用することの積極的意義が見出せ得なかったとの意見、ワーク・ブックの内容に疑問を

感じたとの意見などが出された。そして、ワーク・ブックの問題点を探ることになり、幼稚園・保育所での使用の実態とワーク・ブックの内容分析が行なわれたのである（日本保育学会第三十二回大会発表）。その結果、ワーク・ブックが言語指導のなかでも構造的側面が大部分であり、その取り上げ方にも問題があることが指摘され、総合的な言語指導を考えなければならないことが論じられた。

言語指導のねらいである「話す」「聞く」「考える」こ

とを網羅できる教材として、手近に入手でき、かつ活用範囲の広いもので、乳児期より親しむことのできるものとして絵本がある。これまで、絵本を教材として活用することについては、消極的であった場合が多く、絵本のもつ効用を積極的に認識し、体系的に活用することは稀であったように思われる。そこで、これまでの絵本の活用について見直し、言語指導における絵本の果すべき役割を確認し、絵本の活用の視点についての研究が進められてきた。(日本保育学会第三十三回大会発表)

今回の「絵本の構造分析」はこれら一連の継続的研究の一つであり、子どもに好まれる絵本の物語構造を分析し、その特質を明らかにすることによって、絵本カリキュラム作成にあたっての方向性を述べたものである。

## 絵本の構造分析

### 一、分析対象

子どもに好まれる物語絵本を神沢良輔他の研究「乳幼児の絵本についての興味とその発達」(日本保育学会第

二十九回大会)や奈良女子大附属幼稚園幼年研究会編「絵本との出会い」(ひかりのくに)、市村久子「子どもと絵本」(月刊絵本別冊、すばる書房)らの貸し出しリーダーより五九冊選定し、分析対象とした。なお、この中より上位二十までを抽出し、三才―二十八冊、四才―二十七冊、五才―二十一冊をその年齢に好まれる絵本とした。

### 二、分析の視点

次の視点より分析を行なった。

図 1

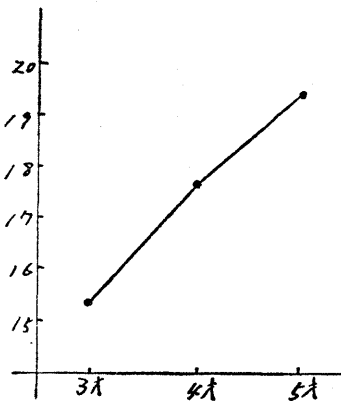


図 2

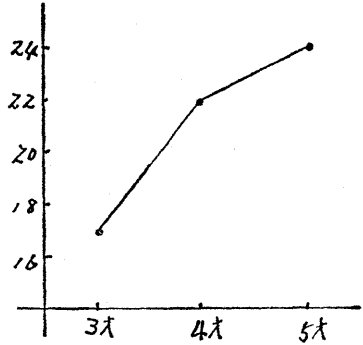


表 1

	3才	4才	5才
導入	2.61	3.74	4.71
展開	12.46	15.70	16.38
結末	2.14	2.56	2.96

(一)見開き・(二)場面・(三)登上人物等・(四)事件・話題

三、結果・考察

(一)見開き

物語のある場面が二ページにわたって映像化されているのを一つの見開きとして数える。図1は各年令の見開き数の平均値をグラフ化したものである。年令が上昇するにつれ、見開き数が増加している。三才と五才では一、三倍であり、t検定の結果は  $t = 11.93$  で  $.10 \sqrt{p} < .05$  であり、有意差傾向がみられる。

(二)場面

ア、場面数

ある一つの行動が描写されている場面を一として考え、その合計点をもって場面数とした。従って、一つの見開きの中に二つ以上の場面が含まれていることがある。

図2は、各年令の場面数の平均値をグラフ化したものである。見開き数と同じように年令が上昇するにつれ増

加している。三才と五才では一、四倍であり、t検定の結果は  $t = 2.22 \cdot 05 / \sqrt{0.25}$  有意な差がみられる。

表1は物語の内容を導入、展開、結果の三部に分けて、その平均値を示したものである。導入と展開の部分が年令とともに増加しているが、結末の部分は変化がみられない。

#### イ、場面割りの特徴

場面割りの特徴としては、次の三点が考えられる。

A、登場人物の動きに即して場面割りがなされている場合

登場人物等の行動に即して、一つの場面が見開き、あるいは一ページの中にある場合と、見開きあるいは一ページの中に幾つかの場面や状況の変化が並列化されている場合とがある。前者には「どろんこハリー」や「もりのなか」の「しするとししました」の繰り返しの場面があるし、後者には「だるまちゃんとかみなりちゃん」のうきぶくろをとる場面がある。

主人公の動きにあわせて、ページが移り変わることは、

同時に時間が推移していくことであり、時間の経過に伴うストーリーの展開が理解できるが、並列されている場面は同一空間にあるため、一つ一つの場面が時間的に異なるものであるとの理解は困難となる。例えば「かにむかし」のさるがはちや牛の糞などで攻撃されている場面は見開きに並列化されているため、同一のさるであるにもかかわらず二匹いると反応したりする。

B、物語の中心となる一場面がとらえられて、描写されている場面

物語の話題が二―三つあり、その一つが見開きあるいは一ページに映像化されている場合であり「ゆきのひのうさこちゃん」がある。一つの話題が見開きあるいは一ページに描かれているということは、ストーリーと絵が一致していることであり、年令が低い子どもにとっては理解が容易であるが、ストーリーの中心となる場面のみが映像化されている場面は、ストーリーに即してイメージをふくらましていかなければならず、高度な理解力を要する。

C、見開きあるいは一ページに中心となる絵があり、周囲に説明のための絵が描写されている場合

代表的なものとしては「はたらきものじよせつしゃ けいていー」や「ちいさいおうち」がある。これらの絵本の場合には、絵を細部にわたって読みとるということが必要とされる。

(三)登場人物・動物・もの

表 2

	3才	4才	5才
人物等の全体	5.71	6.01	7.29
中心人物等	2.41	1.74	1.81

ア、登場人物等数

表2は各年齢ごとの人物等の全体の平均値と中心人物等の平均値を示したものである。全体でみると年齢が上昇するにつれ、登場人物等が増加しているが、 $\parallel 1.44 \cdot 25 \searrow p \searrow 10 \searrow$ 有意な差はみられない。中心人物等は、年齢による差はみられない。

イ、中心人物等の展開

ストーリーの展開に伴い中心人物等がどのように変化するかを類型化すると大きく三つに分けられる。

☆一貫性型

中心人物等が物語の導入から結末まで一貫して出てくるタイプである。このなかには、中心人物等にいろいろなものが加わっていく加算型(「てぶくろ」) 次々にいろいろなものに出会っていく出会い型(「とらっくとらっくとらっく」)、加算型と出会い型の混合の混合型(「もりのなか」)がある。

☆順番型

中心人物等が順番に出てくるタイプであり、「三びきのやぎのらがらどん」「シナの五にんきょうだい」がある。

☆複線型

時間的なずれにより、中心人物が変化するタイプで、先に行ってしまった主人公を後から追いかけていくような場合であり、「さて。の方」は“というような表現が

なされる絵本である。代表的なものとしては「いたずら  
きかんしゃちゅうちゅう」「ふしぎなたけのこ」がある。

#### ウ、中心人物等の性格

中心人物等の性格の成長や特徴がストーリーの展開に  
重要な役割を果たしている絵本がある。一人の中心人物等  
がいろいろな経験をすることによって、大きく成長して  
いく過程が描かれているものとしては「ぞうのババー  
ル」や「ぐるんばのようちえん」がある。また、中心人  
物等の性格―強い・弱い、良い・悪い―を対比すること  
で物語が展開されていくものとしては「おおかみと七ひ  
きのコヤギ」「かにむかし」がある。

#### (四) 物語の構成

物語の構成は二つに分類できる。第一は、物を獲得す  
るとか、悪物を退治するとか、事件解決に向ってストー  
リーが展開される事件解決型である。代表的な絵本とし  
ては「おおきなかぶ」「かにむかし」「十一びきのねこ」  
がある。

第二は、いろいろな事件が次々に起きることによっ

て、ストーリーが展開する事件展開型である。これに  
は、中心人物等が移動するにつれて、時間や状況も変化  
するタイプの絵本―「ひとまねこざる」「とらつくとら  
つくとらつく」「おばけのバーバパパ」と、中心人物  
等は固定しているが、時間や状況が変化するタイプの絵  
本―「ちいさいおうち」「びかくんめをまわす」がある。

#### 四、カリキュラムを立てるための視点

子どもにいつ、どのような絵本を与えるかという絵本  
選択の基準と、選定された絵本をどのように配列するか  
というカリキュラム構成、そしてこれらと子どもの発達  
との関連性を考えることは重要なことである。

これまでの絵本の選択は①子どもが喜ぶ絵本、②読み  
聞かせに合った絵本、③子どもの年令や生活に合った絵  
本、④保育カリキュラムに即した絵本ということになさ  
れている場合が多く、これらのことは専ら保育者の経験  
に大きく依存していた。経験に依存したかたちで絵本の  
活用を考えていくと、新しい絵本を手にしたとき、目的

があいまいなまま試行錯誤的に与えてしまう可能性があるし、また保育経験が浅い保育者にとっては、大きな障害をきたしてしまふ。

子どもたちが喜んでくれるであろうかと疑問を抱きつつ子どもと絵本との出会いがあるよりは、この絵本は〇〇のような特質があるので、子どもたちの反応は〇〇なのではないか”と仮説的なものをもって、子どもと絵本が出会えるのでは、次の時の保育に大きな違いをもたらす。保育者が絵本の中のどのような楽しさを子どもたちに伝えるのがカリキュラム構成の基本であるが、その際、場面割り、登場人物・動物・もの、物語の構成について分析のうえ、これらの相互関連性を考えていかなければならない。

#### (一)見開きと場面割りととの関係からみた場合

最もストーリーの展開がとらえ易いものは、登場人物等の動きにして、一つの場面が見開きあるいは一ページに描かれている場合である。いわゆる「絵がお話をする」といわれるタイプの絵本である。中心となる一場面

がとらえられて描写されている場合や、中心となる絵の周囲に説明のための絵が描写されている場合は、中心となることを「絵でよみとって」理解し、文章を通して、「想像する」という作業が必要となる。従って、子どもの発達と読みきかせの経験とをふまえて与えることが必要である。

#### (二)登場人物等の関連でみた場合

加算型、出会い型、混合型などのタイプにしる、一貫性型は中心人物等が事件の導入から結末まで出てくるので、物語の中で中心的役割を果しているのは誰なのかを理解するのが容易である。順番型は登上してくる人物等の数が多いと、その順序性がわからなくなってしまふ恐れがあるので、登上人物等の数と年令との関係を考慮しなければならない。複線型は主人公と副主人公が時間的にずれて登上するので、年少児の場合は全体的なストーリーの流れを理解するのは困難である。

#### (三)物語構成との関連でみた場合

事件解決型と事件展開型に分類される物語にそつて、

どのように場面割りがなされているのか、どのように絵による形象化がなされているかが、ストーリー展開の理解の鍵を握っている。

### まとめ

絵本は絵と文から構成された文化財である。この文化財に無理なく楽しく出会えるようにするために、どのようにすればよいのか。今回は物語構造という観点から分析し、問題点を考えてきた。絵本の構造を知ることにより目的的な絵本の活用が可能となるわけであるが、それは第一に、絵本の構成の難易度が促えられるからである。ページ数が多いと一見難しそうな印象を与えるが、場面割りとか登上人物等の展開の仕方を見るとそうではなかったりする場合がある。第二には、難易度がわかることにより、どの年齢の子どもたちに与えたらよいのかのカリキュラム構成の視点が明らかになることである。同じ一冊の絵本であっても、年齢により指導のキーポイントになる点が異なることがわかり、子どもの成長に合せ

ての段階的な活用が考えられる。

絵と文からなる絵本において、物語構造の分析の他に解明しなければならないのは「絵」と「文」についてである。子どもがどのような絵に関心をもち、どのように絵を読みとっているのか、またどのような文体であれば理解されやすいのかなど、これらのことについては今後の課題である。（栃木県身体障害医療福祉センター）

### 付記

本研究は安藤智恵子（陽西保育園）、岩原陽子（清愛幼稚園）、小池栄子（釜井台幼稚園）、手塚久美子（瑞穂野保育園）、中村悦子（大妻女子大学）による協同研究である。

なお、本文において取り上げられた絵本の作者名及び出版名は別表のとおりである。



絵 本 名	作 者 名	出版社名
どろんこハリー	ジーン・ジオン文 マーガレット・ブロイ・グレアム絵 わたなべしげお訳	福音館書店
もりのなか	マリー・ホール・エッツ文絵 まさきるり子訳	"
だるまちゃんとかみなりちゃん	加古里子作・絵	"
ゆきのひのうさこちゃん	ディック・ブルナー作・絵 石井桃子訳	"
はたらきものじょせつしゃ けいていー	バージュニア・リー・パートン作・絵 いしいももこ訳	"
ちいさいおうち	バージュニア・リー・パートン作・絵 いしいももこ訳	"
てぶくろ	ウクライナ民話 エウゲーニ・M・ラチョフ絵 うちたりさこ訳	"
とらくとらくとらとら	渡辺茂男作 山本忠敬絵	"
3びきのやぎのがらがらどん	北欧民話 マーシャ・ブラウン絵 せたていじ訳	"
シナの5にんきょうだい	ワレール・H・ビショップ文 クルト・ビーゼ絵 いしいももこ訳	"
いたずらきかんしゃちゆうちゆう	バージュニア・リー・パートン作・絵 むらおかはなこ訳	"
ふしぎなたけのこ	松野正子作 瀬川康男絵	"
ぞうのババール	ジャン・ド・ブリュノフ作・絵 やがわすみこ訳	評論社
ぐるんぼのようちえん	西内みなみ作 堀内誠一絵	福音館書店
おおかみと7びきのこやぎ	グリム童話 フェリックス・ホフマン絵 せたていじ訳	"
おおきなかぶ	内田莉莎子再話 佐藤忠良画	"
びかくんめをまわす	松居直作 長新太絵	"
かにむかし	木下順二文 清水崑絵	岩波書店
ひとまねこざる	エツチ・エイ・レイ文・絵 光吉夏弥訳	"
11びきのねこ	馬場のぼる作・絵	こぐま社
おばけのバーババ	アネット・チゾン作 タラス・テイラー やましたはるお訳	偕成社